

# 新建福岡・NOW

第11号 2015.12.03

発行元  
新建築家技術者集団  
福岡支部事務局  
〒815-0041  
福岡市南区野間 3-9-20-4F  
[ケイ・プラッツ内]  
Tel/Fax 092-541-8128  
HP : shinken-fukuoka.net

〈まえがき〉 いつの間にか世間は年の瀬を迎えておりますが、皆さま如何お過ごしでしょうか。2015年は安保関連法案、沖縄普天間基地移設、東京五輪関係、シリア難民問題にパリ同時多発テロと穏やかならぬ一年でした。目の離せない状況は今も続いています。新建も、今年は例年にも増して大きな催しの多かった年。前回第10号の発行から間があきましたので、まとめてご報告いたします。

## 5月 八幡市民会館、市立図書館の見学会 / 北九州市八幡東区



報告：古川 博

5月23日(土) 新建メンバー4名(大坪、片井、徳永、古川)に徳永氏の友人で、門司で設計事務所自営の保存を考えるメンバーの浜田氏に考える会の三崎代表を交え、会館の設備担当の小幡氏により丁寧な建物の細部に至る引導説明を受けた。

吹き抜け部の緩い階段、手摺のデザイン、2階ホールの両サイドのピアノ鍵盤(写真)の明かり窓のデザイン、柱の赤色のデザイン、ホールの椅子も村野東吾が製作したスプリングが入った椅子が今も存在していた。2階ホールから北側を一望できる屋上ベランダを介して、東側に散会できるスロープのある動線の計画、建物の外装は、塩焼タイルの茶褐色の堂々たる量感のある外壁、この外壁の上部部分は若干の反り返りを持つ外壁正面壁面、ホールは1450席のオーケストラピットがあり、内装は板張仕上げで、天井・座席の空間構造と合わせ、音響的には極めて良好なホールとして各演奏者から好評を得ているホールである。舞台裏も見学したが、広い舞台、舞台裏への外部からの動線も使いやすい配慮がなされていた。当建物は10年前に空調改修工事がなされ、今も多くの団体、市民に利用されている市民会館である。

隣接する八幡図書館(写真)は日本でもRC造の図書館としては日本でも草分けの図書館で、当建物の外観の意匠が素晴らしい。柱と梁のグリットの間に煉瓦タイルを埋めた壁面、その壁面に丸や三角形の幾何学的模様を並べ、又縦長の窓がバランスよく配置されている。

市民会館と図書館を含む当地区は戦災復興記念広場、生い茂った樹木も含め、北九州市のマスタープランでも景観的に優れたエリアとしている地域である。今般、DOCOMOMOの近代建築物として市民会館が認定された。近代モダニズム建築の巨匠村野東吾の作品が、八幡地区の都市計画ゾーンに昭和46年建設の福岡県ひびき信用金庫本店(写真/当建物も見学)の3件が接近して存在し、いずれも建築的に優れ、後世に残すべき建築遺産である。市民会館と建設が同年であった村野東吾設計の米子公会堂は耐震補強をし、リニューアルして残された。

※尚、隣接地の小学校跡地への八幡市民病院新築計画では現在図書館を撤去し、図書館側からのアプローチの基本設計が山下設計グループにより作成され、実施設計委託事業費も議会で承認済である。議会では既存管理棟への図書館の移設に関し、既設管理棟を撤去し、図書館を残して、当位置からのアプローチの提案を求める考える会からの請願を10月の第1回常任委員会では継続審議になったが、11月の第二回の委員会では議論のテーブルにのらず、不採択になっている。





6月27日(土)に福岡支部の例会として「第1回 仕事を語る会」を行いました。この例会では、会員同士のお互いの活動を深く知り合い、それぞれの活動を高めあう足がかりになればと考え企画しました。今回は第1回として大坪克也さん(風土計画一級建築士事務所代表)、片井克美さん(片井建築設計事務所代表)のお二人に自らの仕事ごとの実践を語っていただきました。

第1部は大坪さんより「ワークショップのノウハウについて」と題して話していただきました。大坪さんは保育園や福祉施設などの計画段階でワークショップを取り入れています。まず、ワークショップを取り入れるに至ったいきさつ(清里インタープリターズキャンプや本多昭一さんの講演、ファシリテーション講座、ボランティア活動など)、次に、ワークショップの具体的な内容について(ファシリテーション用語やツール、ワークショップに使う道具など)、最後に、どういった思いを持ってワークショップを実践されているかを語って締めくくられました。参加者のアンケートには「もっと話して欲しい」「再度時間を取ってお聞きしたい」「実際にワークショップを体験してみたい」などの声が寄せられました。



第2部は片井さんより「コンクリート建築物の劣化と設計監理について」と題して話していただきました。片井さんは数々のマンション改修の設計と監理に携わっており、そこで撮られた実際の写真を見せてもらいながらの説明でした。普段はなかなか見ることが出来ないコンクリートや鉄筋の劣化写真は、衝撃的なものも多く、参加者からは「うわー」「えー!」「たった3年で…」など驚きの声が挙がりました。時には一度に50棟も担当されるほど数多くのマンション改修現場を見てきた片井さんからの説明は、大変分かりやすく、また重みのある言葉のように感じました。参加者のアンケートには「写真をたくさん使ってのお話で分かりやすかった」「施工監理の大切さを痛感した」「驚きの内容でした」などの声が寄せられました。



総勢18名の参加者となりました。多くの方から「とても良かった」と好評をいただきました。また、懇親会まで参加された巻口さんが新たに入会され、福岡支部としては嬉しいニュースとなりました。今後も、出来るだけたくさんの会員が成功も失敗も交えて自由に語り合えるような会を続けていきたいと思えます。



7月3日から5日まで、一学び語りあおう「建築とまちづくり」in 沖縄一が開催され、福岡支部からは、7名が参加しました。全国と沖縄を合わせて68名が参加した初めての沖縄での企画でした。

会場となった沖縄県読谷村は、70年前米軍が沖縄上陸を開始した場所で、上陸翌日には子供と老人を中心としたチビチビリガマ集団自決などの悲劇も起きています。この村での「むらづくり」や建築のシンポジウムと見学会が主な内容です。読谷村では石嶺村長をはじめ役場あげての対応をしていただきました。沖縄戦の激戦地、南風原町では戦争遺構を文化財として指定し、まちづくりを行っていました。



オプション企画「宮古島のエコハウス見学」も好評でした。とても得るものが多かった沖縄でした。(詳しい報告は「建築とまちづくり」9月号に記載しています)





2015年7月11日（土曜日）16時から新建会員6名と地元の箱崎みどり・建物どうする会メンバー4名が見学会に参加致しました。見学会はあいにくの土砂降りの雨の中、箱崎みどり・建物どうする会（略称：箱崎みどり会）の事務局長、原田（葉子）さんの引率により当初の予定通り、見学ルートを回る事が出来ました。

見学会後に原田瑛瑠、事務所にて意見交換をおこないました。以下、その時のおもな内容です。

1. 九大箱崎キャンパスの土地が広大である（43ha）。
2. 普通に考えると大学構内に、簡単に入って散策することが出来ると、市民は思っていないのではないか。（九州大学の威厳）（出入り口に、関係者以外の立入禁止看板有り）
3. 新建の会員も、今まで九大の中にそれほど入ったことがない。
4. 箱崎キャンパスのみどり・建物を出来るだけ残す跡地利活用を進めるには、多数の市民に構内に立ち入ってもらい、構内の現況を知ってもらう事が必要。
5. 広報の一案として、構内のみどり・建物の、子どもスケッチ（絵画）大会の開催。
6. 西日本新聞に、箱崎キャンパスの素晴らしさを大きく取り上げてもらう実現性を探る。

以上の様な意見がありました。

今後、引き続き『九大箱崎キャンパス跡地のみどりと建物をたいせつにする』活動を、新建も一緒に行なう事を、確認いたしました。

私たち地域住民の活動は、現在（11月）、『九州大学箱崎キャンパス跡地のみどりと建物をたいせつにするファンクラブ』を結成し、ホームページサイト（<http://love-kyudai.jp>）も立ち上げ、サイト上でも署名を集めています。

今後も、箱崎キャンパスの環境を保全した跡地利利用の要望を続けて参りますので、引き続きみなさんのご協力を、お願いいたします。



「福島セミナー報告」とのお題をいただきましたが、それは建まち誌11月号を見ていただければ・・・などと思いつつ、セミナーに参加して感じたことなどを、つれづれに。

福島については、震災が起きてから多くの報道がなされてきましたし、たった一泊二日でご報告などとは口幅ったい。不勉強な私に与えられた機会ととらえ、行ってきました。ニュースやテレビで見る福島を実感として感じるために・・・。

放射線は目に見えない。偏りのない目で見、判断しようと思いがけるのですが、どう考えても、原発はなくすべきだし、ドイツの様に脱原発を宣言しないのか不思議でたまりません。10年後、20年後、子供たちの将来を見据え、つけを残したらいけないと思わないのかと。

放射線に対する福島の人々の苦悩は計り知れません。原発廃炉の費用を電力会社の負担にしないので、再稼働を許してしまうのです。再生エネルギーで産業振興をすればよいのに、現政権は変なバラマキばかりやっている。現地で講演をしていただいた方、説明をしていただいた方が、悔しさと怒りでいっぱいだとロクに言われます。「選挙に行こう！政治に目を向け監視していこう！」・・・選挙のたびに、子供たちにメールをしています。





10月2日(金)、アクロス福岡で7月に行なわれた沖縄セミナーと8月の福島セミナーについて、まとめて報告会を開きました。それぞれ、参加した会員が手分けして写真や資料を用いたパワーポイントで報告を行ない、会場に集まった20数名の参加者が熱心に耳を傾けました。なお、内容の詳細については、建まち誌9月号(No.444)に片井さんの沖縄報告、同11月号(No.446)には福島の記事がありますので、そちらをご覧ください。

報告会の概要です。( )内は報告担当者

- 学び語りあおう「建築とまちづくり」in 沖縄 7/3~7/6
  - ・ 沖縄総括(片井)
  - ・ 読谷村のむらづくり、南風原の歴史とまちづくり(大坪)
  - ・ 風土に根差す住まい(矢野)
- 「建築とまちづくりセミナー2015 in 福島 8/28~8/29」
  - ・ ビデオ上映 アニメ「見えない雲の下で」
  - ・ 被害の総体、復興計画、仮設に暮らす人々(古川)
  - ・ バス視察レポート(渋田)



報告会後の懇親会では、沖縄、福島、そして新建の活動について話が盛り上がりました。また当日、新たに会員になられた方もあり、実りの多い楽しい報告会となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



11月28日から30日まで、東京で第30回全国大会が開催されました。福岡支部からは代議員2名と評議員1名が参加しました。2日間にわたる活発な議論の後、大会議案が一部修正して可決されました。詳しくは「建築とまちづくり」で報告が行われます。30日には、見学会が2コースで開催され、私は東京駅周辺見学会に参加しました。東京支部の小林さんによる詳しい説明を受けながらの3時間でした。東京駅周辺の建物が超高層に置き換わっている様子がよくわかりました。(議案書は「建築とまちづくり」10月号に記載しています)

今月のお話し：「浜辺の足跡」(マーガレット・パワーズ作)

ある日、私は夢を見ました。  
浜辺を神とともに、歩いている夢を。海の向こうの大空には、私の今までの人生の光景がはっきりと映し出され、どの光景の前にも、浜辺を歩いている神と私の二組の足跡がありました。最後の光景まで見たとき、振り返ってみると、ところどころに、足跡がひとつしかないことになりました。それはいつも私が苦境に落ち込み、悲しみに打ちひしがれているときでした。

私は神に尋ねました。  
「いつも私のそばに居てくださると約束されたのにどうして私を見放されたのですか。」

神は静かに答えておっしゃいました。  
「私の大切なという子よ。私は決して、貴方のそばを離れたことはない。貴方が見たひとつの足跡……。  
それは苦しみや悲しみに傷ついた貴方をそっと抱き上げて歩いた、私の足跡……。」と。

ある日、私は夢を見ました。浜辺を神とともに歩いている夢を……。

※編集後記：寄稿して戴いた皆さま、本当にありがとうございました。こうして並べてみると、改めて今年は活動が活発でしたね。来年もまた一緒に考え、議論し、行動して参りましょう！(KO)